



発行
日本共産党
寝屋川市委員会
072-823-0058
FAX : 823-4336
No. 3470

寝屋川市会議員

中林かずえ
宝町 4-33
090-3944-8385
寝屋川市会議員

松尾信次
下木田町 12-6
090-3056-9924
寝屋川市会議員

西田まさみ
石津中町 30-3
090-9713-3588
前寝屋川市会議員

太田とおる
高柳 2-49-2
080-3818-9722

17日市議会臨時会開催 市内3ルート 10人乗りで 京阪バスと同時刻・同路線で運行

現在のバス路線継続へ 寝屋川市 市民の要望にこたえる

京阪バス株式会社が市内3路線を今年3月末で廃止を決める中、寝屋川市が、空白期間を設けることなく市民の移動手段を確保し、市民生活を維持するため、運転委託業務について、これまで市が負担金として支出してきた範囲内で、10人乗りの乗り合いバスを運行する補正予算が17日の臨時議会で提案され、審議のうえ全会一致で可決されました。



バスの運行概要は次の通りです

- 運行開始日 今年4月1日(予定)
- 運行ルート 黒原ルート、木田・河北ルート、木屋ルート
- 黒原ルート 50系統 萱島駅—黒原旭町—萱島駅
- 木田・河北ルート
 - 51系統 寝屋川市駅—萱島駅—河北—深北緑地
 - 52系統 池の里市民交流センター—萱島駅—河北—深北緑地
 - 53系統 萱島駅—河北
- 木屋ルート
 - 54系統 京阪香里園—点野—京阪香里園
 - 55系統 京阪香里園—点野—石津元町—寝屋川市駅
- 運行時間帯 現在の路線と同じ時刻
 - ※黒原ルートの朝など10人をこえると見込まれる時間帯は、バスを複数配車します。
- 運賃 通常運賃 大人230円、子ども120円
 予算としては、今年度周知にかかる費用、バス停表示の変更などで、89万円計上。債務負担行為(複数年度にわたる場合など、翌年度以降にも支出を行う必要がある事業について契約締結をするためなどに、予算として議会の議決を経るもの)として、以下のように計上されました。
 - ・運行業務委託 269、703千円(23, 24, 25年度)
 - ・車両購入(7台) 29、898千円(23, 24, 25年度)
 - ・レンタカー7台 10、780千円(23, 24年度)
 - ・バス停標識 3、333千円(23, 24年度)

「能登半島地震災害募金」 ご協力をお願い

1月1日の地震発生後、日本共産党はすみやかに「地震対策本部」を立ち上げ、被災地での調査・救援活動にとりこんでいます。すぐにできるとりくみとして、災害救援募金のお願いをしています。12日までに、全国で集まった8000万円の救援募金を被災自治体にお届けしました。ご協力をお願いいたします。お問い合わせは、最寄りの議員、党員などをお願いいたします。

住民税均等割りのみ課税世帯に10万円給付 低所得の子育て世代に 児童一人5万円給付

①住民税均等割のみ課税世帯への給付②低所得者の子育て世帯への加算について、迅速に支援を届けるための補正予算が可決されました。

概要は以下の通りです。

・住民税均等割のみ課税世帯 1世帯10万円	4,000世帯(見込み)
・低所得者の子育て世帯への加算 児童1人当たり5万円	7,000世帯(見込み)
予算額	8億4278万2000円

国から速やかに対応する



日本共産党寝屋川市委員会 新春のつどい

日本共産党寝屋川市委員会、日本共産党寝屋川後援会は1月13日、「2024年寝屋川新春のつどい」を開催しました。来賓あいさつなどとともに、中林かずえ、松尾信次、西田まさみ市会議員、太田とおる前市会議員があいさつをしました。

市民の暮らしを守る市政の推進とともに、国政選挙で日本共産党前進へ奮闘する決意を述べました。つどいでは、音楽演奏などもありました。



参加者と「団結がんばろー」
13日 市民会館

市民の声を反映し 公共交通を守る施策を評価

1月臨時議会 松尾議員が討論

1月17日の市議会臨時議会本会議で、日本共産党の松尾信次議員は、左記のように討論をおこないました。

日本共産党を代表して、議案第1号一般会計補正予算(第10号)について、賛成の討論をおこないます。

まず、生活困窮者の自立支援に要する経費、低所得者給付金については、可能な限り早く確実に支給できるようにとめます。

また、能登半島地震被災地の救命・救急活動、ライフラインの確保、河川・道路復旧、住民の生活と生業、住宅の再建を最優先にしたとりのくみを行うこと。今日の物価高の下で、国として消費税減税、最低賃金の引き上げなど施策の具体化がもたらめられます。

寝屋川市としても、ひきつづき市民生活を守る施策の具体化をすすめるよう、とめます。

次に、公共交通等の充実とサービスの向上に要する経費です。

昨年11月1日、京阪バス株式会社が市内3路線の今年3月末での廃止を公表し、市民から存続を願う声が多く寄せられました。

今回の提案は、寝屋川市として、今年4月から10人乗りの乗り合いバスを3路線で、京阪バスと同時刻・同路線で運行するもので、市民の意見を反映し、公共交通を守るものとして評価します。

今後とりのくみを具体化する中で、市民の意見をしっかりと聞き、実状にみあったものとなるよう、市としての

物価高でくらしは困難

被災地支援 市民生活を守る施策を

りくみをもとめます。

同時に、今回の寝屋川市のとりくみに対して、国や大阪府の補助がないことは、まことに残念です。過疎地に限らず、大都市部でも住民の足を守るため、市まかせにせず、国と大阪府が財政的な措置

を行うよう寝屋川市として求めるべきです。

最後に、私たちも行政に要請するだけではなく、市会議員として、新たな事業が円滑にすすみ、多くの住民のみなさんに利用していただけるように、努力をまいります。



松尾 信次

1月1日午後4時すぎ、自宅に戻ってすぐ、激しい揺れがおき、びつくり。テレビをつける

と、石川県能登地域中心の最大震度7の地震。女性のアナウンサーが「津波が来ます。すぐに避難してください」と大きな声で呼びかけていました。

17日は阪神淡路大震災から29年目の日です。あの日は、朝の5時46分、経験したことのない激しい揺れで起こされ、テレビをつけました。テレビで報道されており、大きな地震であるものの、具体的な状況がよくわからない感じでした。私は当日は駅前朝の宣伝をする日で、7時ごろから、宣伝をはじめました。ところが7時半ごろから、通勤する人たちが戻ってきて、1か所の公衆電話に行列ができました。「電車が止まった」ことがわかり、宣伝を中止しまし

た。

東日本大震災、大阪北部地震、大雨による浸水、台風21号の強風など、この間の出来事が目に浮かびます。

能登半島地震では、被災地の救命や救急活動と合わせて、ライフラインの確保、生活再建、住宅再建、河川・道路などの復旧には相応な時間と多額の予算措置をすることが必要で、国と自治体が最大限とりのくむことがもたらめられます。

今、SNSでは、「万博を中止して能登半島地震の復旧・復興に予算をまわすべき」との声が強まっています。

万博に資材や人材、重機、巨額の税金が大量に投入されていくことになれば、被災地の復旧・復興に支障をきたすことが懸念されています。